

第4学年 日本の音楽でつながろう

上野原市立秋山小学校 第4学年 10名 指導者 教諭 和智宏樹

1 題材名 「日本の音楽でつながろう」

2 学習指導要領の内容との関連

A 表現	(3) 音楽づくり ア(ア)・イ(イ)・ウ(ウ)
B 鑑賞	ア・イ
[共通事項]	(1) ア・イ
本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素 ・我が国や郷土の音楽に使われている「音階」とその音階の音を使った「旋律」	

3 題材の目標

- (1) 我が国や郷土の音楽の曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いたりするとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 我が国や郷土の音楽に使われている音階や旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、我が国や郷土の音楽に使われている音階や旋律の音の動きを生かし、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 我が国や郷土の音楽や楽器、音階、旋律などの特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材について

本題材では、鑑賞の学習を通して、我が国や郷土に伝わる音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取り、よさや面白さ、美しさを味わうことを重視する。また、そこで使われている音階を用いた音楽づくりを行い、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ることで、より我が国や郷土の音楽の特徴や古くから伝わる楽器等に興味・関心を高めるようにする。

鑑賞の学習では、題材の最初と最後に学習時間を設定し、音楽づくりとの関連を図った。題材を鑑賞→音楽づくり→鑑賞とすることで、最初に聴いた音楽がきっかけとなり、音楽づくりの活動を通して聴き取ったり感じ取ったりしたことを基にしてそれらの関わりを考え、終末では我が国や郷土の音楽のよさや面白さ、美しさをより深く味わうことができるのではないかと考えている。また、今回は我が国や郷土の音楽の代表的な音階について扱う。音階は、通常鑑賞活動の中では児童自らがその存在や違いに気付くことは難しいが、箏を用いて準備した音階の音を実際に出したり聴いたりしながらクイズ形式で楽しみながら学習を進めることで、感性を働かせながら音階のもつ雰囲気や特徴を捉え、鑑賞の学習が展開できるように工夫していく。

音楽づくりの学習では、鑑賞の学習で扱った音階を用い、旋律の音の動きを主な手がかりにしなが
ら音楽をつくっていく。即興的な音遊びを入りにしながら様々な旋律をつくり、それらを話し
合いによって共有することで、旋律の音の動きの種類などの特徴に気付くようにするとともに、そ
れらの特徴から感じられる音楽の感じについても交流する。音楽から聴き取ったことと感じ取った
ことの関わりについて考える活動を意識的に設けていくことで、音楽的な見方・考え方を働かせな
がら資質・能力を育成する学習を目指していきたい。また、本題材では、箏一面を両側から調弦*し
2人の児童が使うことで、対話をしながら協働的に音楽をつくることのできるよう教具や学習環境
についても工夫していく。

鑑賞と音楽づくりの両方の学習が互いに関わり合う時間設定、また、思考・判断のよりどころと
なる音楽を形づくっている要素を共通のものに絞り込むことにより、児童はより深く音楽を味わっ
たり思いや意図をもって表現したりすることができるはずである。このように互いに学習を関連さ
せることで児童が我が国の音楽に親しみ、よさを一層味わうことのできるような題材としたい。

本学級の児童は、昨年度は新型コロナウイルスの影響で歌を歌ったりリコーダーを演奏したりと
いった学習は思うようにはできていない。そのため音楽づくりの学習はリズムを扱ったものを中心
に行ってきた。昨年度は、「繰り返しと変化」を使って16拍のリズムをつくる学習や締太鼓を使っ
て即興的に祭囃子風の音楽をつくる学習などを行った。今年度一学期には、「呼びかけとこたえ」を
使って言葉を使ったリズムアンサンブルづくりに取り組んだ。授業の導入時に行う常時活動も拍や
リズムを主に取り上げ、拍に合わせて体を動かしたりリズムを打ったりする活動をととても楽しみな
がら取り組んでいる様子が見られる。そういった学習の成果もみられ、一人でリズムを打ったり短
いリズムパターンを創作したりすることは全員ができる。しかし、試行錯誤をしながら様々な音楽
をつくることのできる一方、それらを比べて「音楽の感じがどのように違うか」「自分にとってどち
らがどのように好きか」などを言葉で表現することは難しい様子も見られた。鑑賞についても同様
で、音楽から様々なことに気付くことができるが、そこから感じる思いやイメージについては表現
することが苦手な児童が多い。

本題材では、友達と協働しながら試行錯誤を重ね、自分たちがつくる音楽に思いや意図をもつこ
とができたり、音楽を聴いて感じたことを自分なりの言葉で表現することができたりするように学
習の展開を工夫したい。そして、中学年の児童が音楽を楽しみながら体を使って音楽を実感すると
ともに音楽を表現する語彙を増やし、音楽を豊かに味わう力を伸ばしていきたい。

5 目指す児童の姿

○我が国や郷土の音楽の音階や旋律の音の動きの特徴を聴き取り、それらから感じたことを伝え合
う活動を通して学びを深め、音楽のよさや面白さ、美しさを味わったり、即興的な表現を通して
音楽づくりの発想を得たりすることができる。

6 指導上留意していく点

学年の系統性を意識し、学びを積み重ねる授業づくり

○我が国や郷土の音楽を題材として扱う。第3学年では祭囃子を扱う中で口唱歌にも触れた。今回は
民謡を主に扱いながら楽器や声の特徴、音階にも目を向けていく。箏を演奏する体験で縦書きの楽

* 箏を両側から音階に合わせて6音ずつ調弦する。楽器が本来もつ響きや音色を失う可能性も考えられるが、本題材では音楽づくりの学習において、対話的・協働的に活動を進めるための教具として使用する。

譜についても扱ったため、音楽づくりでは縦書きのワークシートを用いる。今までの学習を踏まえながら本題材でも我が国や郷土の音楽の様々な特徴に親しみ、高学年ではさらに幅広いジャンルの我が国や郷土の音楽に親しんでいく。

- 第3学年では、3つの音を使った旋律づくりを行った。5つの音（五音音階）を使っての音楽づくりは初めての活動になる。扱う音が多くなるが、音楽遊びの時間を設けたり、全員が活動に取り組むことのできる条件を設定したりし、安心して自由な雰囲気の中で試行錯誤を重ね、5つの音をどのように選択したり組み合わせたりして音楽をつくるのか、活動を通して児童一人一人が音楽づくりの発想を得られるようにする。本題材で旋律をつくることの楽しさや魅力を感じることで、高学年での西洋音階（7音）や和音の構成音を基に旋律をつくる活動へスムーズにつなげていきたい。
- 音楽に対する感性や知識・技能は一題材のみで身に付けることは難しい。年間を通して、学習内容に合わせた常時活動を効果的に取り入れることで、音楽活動を楽しみながら音楽的能力を育てていきたい。本題材では、グロッケンを使って、仲間はずれの音階を見つける活動や短い節をリレーするような活動を行い、音階や旋律づくりに親しんでいきたい。

【共通事項】を支えとし、各分野・領域間の学びの関連性を意識した授業づくり

- 鑑賞→音楽づくり→鑑賞という題材構成の中で「音階」と「旋律」を主な思考判断のよりどころとする要素とした。鑑賞→音楽づくりでは音階、音楽づくり→鑑賞では、最初の鑑賞の学習も踏まえながら音階と旋律を思考判断のよりどころとしながら学習を進める。題材全体に渡って要素を2つに絞り込み、それを基に思考判断したことが次の学習活動に生かされ、学習が深められるようにする。

聴く活動を通して知覚・感受する力を豊かに育み、表現及び鑑賞の学習を充実させる授業づくり

- 第1時の鑑賞の学習では、音階に注目する。クイズ形式で音階を聴き比べる活動を取り入れることで、楽しみながら感性を働かせて音階の特徴や違いに耳を傾けられるようにする。その学習が音楽づくりで児童がもつ思いや意図のきっかけとなるようにする。また、第4時の鑑賞の学習では、第1時と同じ音階で違う曲想の曲を聴き比べながら、音階や旋律の特徴と曲想の関わりについて考え、我が国や郷土の音楽のよさや面白さ、美しさに気づき、音楽を味わえるようにする。
- 音楽づくりの学習では、「即興的に音楽遊びしながら」「一人で短い旋律づくり」「友達と協働しながら」とスモールステップで活動を進めていく。全ての段階で友達の表現を聴く時間を確保するとともに丁寧な言葉かけ（即時的な評価）を行い、言葉と音・音楽を介した対話を取り入れることで児童一人一人の表現が深められるようにしたい。また、ワークシートへの記録と共に、1人1台端末を使った録画を行う。児童が自分たちの表現を客観的に聴き、振り返りながら活動できるようにする。

児童の変容を見取るための工夫

- 鑑賞の学習では、児童が聴き取っていることを見取る手立ての一つとして、手を挙げる、声を出すなど身体を使いながら活動を進める。児童の発言と併せて児童の体の動きにも注目しながら評価をしていきたい。また、音楽から聴き取ったこと感じ取ったことを言葉で表現する場面では、自由記述だけでなく、知覚・感受に関わる言葉を用意し、その中から児童が選んで記述するような方法もとる。音楽を言葉で表現する力の育成を図りながら、様々な児童の考えを見取ることができるとしたい。
- 音楽づくりの学習では、つくった旋律を消さずに残しておけるようなワークシートを用意することや、つくった旋律に対する思いなどを記録する振り返りの時間をとることで児童の変容を見取るこ

とができるようにする。また、児童の録画した演奏を見直すことでも児童の変容を見ていきたい。

7 教材について

(1) 教材名

- 鑑賞教材（第1時） 「さくらさくら」日本古謡 「こきりこ」富山県民謡
「ていんさぐぬ花」沖縄県民謡
- 鑑賞教材（第4時） 「さくら変奏曲」宮城道雄作曲 「都留機織唄」山梨県民謡（都留市）
「谷茶前節」沖縄県民謡
- 音楽づくりで扱う音階（箏を用いる）
 - ・都節音階「ミ・ファ・ラ・シ・ド・ミ」 ・民謡音階「ミ・ソ・ラ・シ・レ・ミ」
 - ・沖縄音階「ミ・ソ・ラ・シ・レ・ミ」 ※アンダーラインは中心音

(2) 教材選択の理由

第1時で扱う3曲は、我が国や郷土の音楽の音階を使った代表的な曲である。音階の聴き比べでは、都節音階と沖縄音階の曲を扱うが、音階の違いがはっきりと分かる2つを比べることで楽しみながら興味をもって取り組むことができるであろう。第4時では、第1時と同じ音階をもつ曲で曲想の違った3曲を用意した。音階によって音楽の感じが違うこと、音階が同じでも曲想に違いがあることに気づき、音楽を味わうためのきっかけになると考えた。また、児童の住む秋山地区の隣にある都留市の民謡を扱うことで、郷土の音楽に親しむ機会としたい

音楽づくりでは、鑑賞の学習と同じ音階を使い箏を使って活動する。箏は我が国に古くから伝わる楽器の一つであり、音を出すことも容易である。本校では、例年箏の体験をしているため、児童にとっても馴染みのある楽器である。

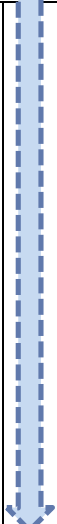
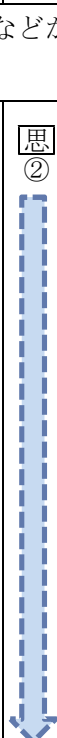
8 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 我が国や郷土の音楽の曲想と音楽の構造との関わり気付いている。(鑑賞) ② 知・技 いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり)	思 ① 我が国や郷土の音楽に使われている音階の違いや旋律の音の動きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音階や旋律の音の動きを生かし、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得ている。(音楽づくり) 思 ② 我が国や郷土の音楽に使われている音階、旋律の違いなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)	態 ① 我が国や郷土の音楽や楽器、音階、旋律などの特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習に取り組もうとしている。(鑑賞、音楽づくり)

9 指導と評価の計画（4時間）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 *指導上の留意点	評価の観点 【評価方法】		☆Aと判断する児童の状況例 ■個別な働きかけを要する児童への支援
		知 ・ 技	思	態
1	◎我が国や郷土の音楽に使われている音階の特徴に気付く。 ○我が国の音楽を聴いて特徴に気付く。 ・まず、都節音階と沖縄音階の2つの曲を聴いて感想を交流する。 「聴いたことあるよ」「沖縄?」「昔の音楽」「お箏（三味線）の曲だ」 *児童とのやり取りを通してこれらの曲にどのような印象をもっているか捉え、音色から音階へ話題をつなげていく。 ・音階仲間分けクイズを通して、音階について気付きを交流したり音階の仕組みを知ったりする。 *都節音階、沖縄音階の箏を2面ずつ用意し、音楽と音階を聴き比べながら音階に耳を傾けられるようにする。聴き比べをする中でそれぞれの音階の違い、そこから感じる特徴なども触れることで今後の音楽づくりや第4時の鑑賞の学習につなげていく。 *音階を当てられることが目的ではなく、響きの違いなどに気付くことができるようにする。その後、音階の音の並びなどを提示し、音階の説明をする。 ・音階について確認したところで、再度全曲を聴き気付いたことを交流する。 ・3つめの音階として、民謡音階についても紹介する。	①知		①知 ① ☆楽器の音色やリズム、音階のもつ特徴と曲想との関わりについて聴き取ったことや感じ取ったことが言葉や体の動きで明確に表れている。 ■興味をもった曲や楽器、その音色などを具体的に尋ね、友達の発言に対して似たような考えはないか確認する。
	◎五音音階を使って旋律をつくる活動を通して音階や旋律の音の動きの特徴に気付き、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして音楽をつくる。 ※常時活動 ○五音音階で旋律をつくる。 ・前時で学習した音階の中から自分が使いたい音階を予め選んでおき、一人で2小節の旋律をつくる。 *箏一面を両側から調弦し、二人で使う。	②知・技		②知・技 ☆様々な旋律の音の動きやリズムパターンを組み合わせることで、様々な音楽ができることに気付き、その違いを意識しながら自分の気に入った音楽をつくることのできている。

	<p>一人が6弦（6音）を使って旋律をつくる。</p> <p>*1音のみ同じリズムの旋律づくりから即興的に始め、だんだんと音の数、リズムパターンを増やしていくことで、全員が無理なく旋律をつくることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • つくった旋律を交流しながら、それぞれの特徴について知る。 • 旋律の音の動きを意識しながら旋律をつくる。 <p>「旋律の音の動き」…（前半・後半・全体的） 上がり⇄下がり，山⇄谷</p> <p>*特徴について交流しながら、その特徴から感じられる様子についても交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 再度，つくった旋律を交流し，友達の旋律とつなげる活動につなげていく。 <p>*次時の活動の見通しをもつことができるよう，試しにつなげてみたりつなぎ方を説明したりする。試しにつなげた際には，その時の音楽の感じや違和感なども少し触れ，次時の活動がスムーズに進められるようにする。</p>	【ワークシート・演奏発表・録画】	<p>■少ない音，単純な旋律でも表現できることを認め，一つずつ音やリズムを確認しながら学習を一緒に進める。</p>
◎友達と協働しながら，音階や旋律の音の動きの特徴を生かして，音楽づくりの発想を得る。			
3	<p>※常時活動</p> <p>○友達と旋律をつなげて音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前時に確認した旋律の音の動きの特徴を確認し，二人の旋律をどのような音楽にするか話し合いながら工夫してつくる。 <p>「旋律の音の動き（旋律の形）」 「つなげる音，終わりの音」</p> <p>*音に出して確かめながら話し合ったり，ワークシートにメモしたりするよう声かけをする。</p> <p>*「リズム」「旋律の音の動き」等の特徴はいろいろなパターンを試しながら自分たちのお気に入りの音楽をつくるようにする。</p> <p>*自分たちの音を録音し，客観的に作品を聞きながら試行錯誤できるよう，1人1</p>	思①	<p>思①</p> <p>☆旋律の音の動きやリズムの組み合わせを友達と相談しながら試行錯誤を繰り返し，自分たちのつくる音楽に明確な思いや意図をもっている。時には設定条件を拡張するような表現方法について試すなど，表現したい音楽について多くの工夫が見られる。</p> <p>■自分たちでつくった旋律や友達の旋律を聴いて，どんな特徴があるのか，自分たちの音楽はどのようにしたいのか，気持ちを尋ねながら一緒に表現の工夫をしたり，つくる音楽の方向性をアドバイスしたりする。</p> <p>態①（主に音楽づくりの学習）</p> <p>☆友達の演奏や意見をしっかりと聴いて自分やグループの表現をより良いものにしようと試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいる。</p> <p>■学習活動の楽しさのみに意識が向</p>

	<p>台の端末を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時と同様に「リズム」「旋律の音の動き」等の特徴、それから感じられる音楽の様子について交流する。 ・自分たちのつくった旋律の特徴や思いや意図について簡単に説明したり、友達をつくった旋律の特徴、感じられる雰囲気などを発表したりする。 <p>＊友達をつくったものが視覚的にもとらえられるように大型提示装置を用いる。</p> <p>＊知覚と感受の関わりについて意識できるように補助発問をしたり、板書でまとめたりする。</p> <p>＊前時につくった2小節の旋律をつなげるところから学習を始めるが、新しい旋律につくり直したり音を重ねたりするなどの工夫が児童から出された場合は認めていく。</p>		 <p>【発言・ワークシート・録画】</p>	<p>いてしまう場合には、学習のめあてについて再度確認する。</p>
4	<p>◎我が国や郷土の音楽に使われている音階や旋律などが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら曲全体を味わって聴く。</p> <p>※常時活動</p> <p>○我が国の音楽を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの音階や音楽づくりで学習した旋律の特徴から感じられる音楽の感じなどについて振り返る。 ・全曲の冒頭部分を聴いた後、自分のお気に入りの音階の曲を聴き、その曲のおススメ文を書く。 <p>＊1人1台端末を用いて一人一人が集中して音楽を聴くことができるようにする。</p> <p>＊おススメ文を書く際には、今まで学習したことを使って書くよう声かけする。語彙が不十分な児童がいることも考えられるので、今までに学習した音楽を形づくっている要素や聴き取ったこと、感じ取ったことなどを児童が見えるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の途中と終わりに考えを交流する。 	<p>【思②】</p>  <p>【発言・ワークシート・観察】</p>	<p>【思②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆音楽から聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて複数の要素から考え、音楽のよさを見いだしたり、音楽を味わって聴いたりしている。 ■掲示してある音楽の構造や曲想に関する言葉から自分の考えや思いと近いものはないか、一緒に探しながら児童の考えや思いを確認していく。 <p>【態①（主に鑑賞の学習）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆複数の楽器の音色に注目しながら音楽を楽しみ、自分の聴いたことのある他の我が国の音楽や外国の音楽などと比べながら聴いている。音楽の細かな部分についても音色やリズム、音階といった要素を手がかりしながら粘り強く何度も音楽を聴き、音楽のよさや面白さ、美しさについて考えようとしている。 ■学習活動の一部でも（聴こうという姿勢、お筆の音を出す等）できていることを認めながら意欲を高められるよう声かけすると共に、友達の学習の様子の良いところを共有し、友達の真似をしたりヒントにしたりすることも大切な学習であることを伝えながら学習を楽しむことができるよう支援する。 	

名前 []

日本の音楽でつながろう
「日本の音楽、どんな曲？」

曲名	さくらさくら	ていんざぐぬ花
予想		

<p>「さくらさくら」</p> <p>お気に入りの度☆☆☆☆☆</p>	<p>「ていんざぐぬ花」</p> <p>お気に入りの度☆☆☆☆☆</p>	<p>「 」</p> <p>お気に入りの度☆☆☆☆☆</p>
-------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------

	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		

	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		

	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		
	六五四三二一	六五四三二一		

日本の音楽でつながろう

名前〔 〕

「あなたの音階、どんな音楽？」

☆今日使った音階は？

音階

明るい 楽しい 元気な ぽかぽか
うめりあするよさな やさしい 静かな
落ち着いた感じ くすぐり△△してみたいな
まるで○○が◇◇してよさな

☆どんな音楽できた？

○せんりつは、

前半

後半

・山 ・谷 ・上がり・下がり
・ジグザク ・たいら
・その他〔 〕

なりえんや選むのひきを離してよらな

な曲になつたよーなるかもー
したいなー

「日本の音楽、どんな曲？」②

名前

①曲名	②曲名	
<p>【鑑賞気づきメモ】まずは☆印のことに気を付けてきこう</p> <p>☆せんりつ（なめらか・切れてる・はげしい・ジャンプ 動きが少ない・その他）</p> <p>【お気に入りのところ・・・ 分 秒】</p> <p>※他にも気付いたことがあったらメモしよう</p> <p>○リズム（細かい・長い音） ○音色・気になる音 （楽器の音・「カンカン」～みたいな音・高い低い など） 〔 〕</p> <p>○速 さ…（速い・おそい） ○強 弱…（強い・弱い） ○その他</p>	<p>【鑑賞気づきメモ】まずは☆印のことに気を付けてきこう</p> <p>☆せんりつ（なめらか・切れてる・はげしい・ジャンプ 動きが少ない・その他）</p> <p>【お気に入りのところ・・・ 分 秒】</p> <p>※他にも気付いたことがあったらメモしよう</p> <p>○リズム（細かい・長い音） ○音色・気になる音 （楽器の音・「カンカン」～みたいな音・高い低い など） 〔 〕</p> <p>○速 さ…（速い・おそい） ○強 弱…（強い・弱い） ○その他</p>	
○2曲をくらべて、「にているなあ」と思ったことがあったら教えてください	<p>なんで？（音楽のとくちょう）</p> <p>思った・感じた</p>	
○2曲をくらべて、「ちがうなあ」と思ったことがあったら教えてください	①は、	<p>なんで？（音楽のとくちょう）</p> <p>思った・感じた</p>
	②は、	<p>なんで？（音楽のとくちょう）</p> <p>思った・感じた</p>
○この2曲の（どちらも好き・「 」の方が好き）	<p>なぜなら、</p> <p>音楽の</p> <p>なところが</p> <p>に感じるから・な気分になるから</p>	